

◆国内外の大学とのインターンシップ連携プロジェクトをスタートしました。

●インターンシップとは？

国内では「学生が在学中に自らの専攻や将来希望するしごとに関連した就業体験を行うこと」とされており、世界の国際的大学や大学院では、一定期間の『インターンシップ』を義務づけているケースが多く、近年日本においても大きな流れになりつつあります。

●これまでの『大学生』受入れと『何』が違うの？

当町の『資源や課題』に対して、『具体的に達成すべきこと』を実践することで、学生は講義では得られない現場経験を積み、当町は更なる成長の足掛りや課題解消に向けた『成果』を提供して貰う、双方の利益創出型と明確に定義した、言わば大学生版のアクティブラーニングであることです。

※アクティブラーニング：主体的な考察や実践を通じて子どもたちの成長を促進する教育方法

●どんな大学と連携をするのか？

インターネット社会到来で、遠くの人々との意思疎通が容易になったからこそ、県内にこだわることなく、当町の『資源や課題』に対して、当町に成長や課題解消をもたらす可能性が高い大学と連携します。慎重な検討の結果、下記大学とインターンシップ連携をすることとしました。

1)国内：宮崎大学 地域資源創生学部

躍進著しい宮崎県の地域活性化の知的拠点の一つ。農村を横断的に見つめる新たな切り口の学部創設及び社会還元方針は全国的に大きな注目を集めている。実践活動による社会の課題解消を強く意識した学生を育成すべく、全国各地あらゆる分野から教員を積極採用していることも大きな特徴。

2)海外：L'Ecole Nationale Supérieure Agronomique de Toulouse(ENSAT)

1909年創設。農業、食料生産、環境分野の専門家を輩出しているフランス屈指の農業系大学院。教育・研究成果を積極的に現場へ反映させる意識が高い。ワイン醸造学等への造詣も深い。

大規模集約型農業のイメージが強いフランスだが、文化・生活・風習を上手に農業加工品の付加価値化に繋げる理念と手法は日本として学ぶべき点が非常に多い。

●学生達と希望溢れる『未来』づくりを進めるためにとても大切なこと

志の高い、優秀な人材と連携することは、人口急減地域の未来づくりにとって大変重要なことですが、同時に、町としての『志』の高さや、『取組み』の確かさが求められるようになります。

その証拠に、元気な過疎地ほど、『優秀人材』が集まり、相乗効果をもたらしていますが、彼らが集結する理由が、その地域の人々の『志』の高さや、『取組み』の確かさに共感している点にあります。

特に、一部の人々による活動では無く、多様な町民が自発的にまちづくりに参加している地域ほど、好まれる傾向があります。

町を成長させる為に極めて有効な手段である戦略的な『インターンシップ』事業へのご理解とご支援、そして何よりも『ご参加』をどうぞ宜しくお願いいたします。

大学生との協働活動を通じて、課題解消を望む『自治会や事業者』からの相談を積極的に受け付けます。

◆ふるさと納税に関する『新規参入』希望事業者を対象とした『説明会』の開催について

本年8月より、錦江町の更なる成長と町内事業者の経済波及効果向上を目指して、ふるさと納税の事務局を大阪の事業者から錦江町まち・ひと・『MIRAI』創生協議会に移しました。

ようやく安定運営体制が整いましたので、町内経済の更なる向上を目指して、**新規参入希望の町内事業者向け説明会を開催します。詳細は本号に同封している『チラシ』でご確認ください。**

自社ビジネスの成長や町の更なる成長に寄与できる『ふるさと納税』への積極的な『参加』をお待ちしています。